

国際フォーカシング研究所
carrying life and thought forward

せい
生と思考を推進させる

フォーカシングは体験的な傾聴に根差したプロセスで、強力に、このからだに感じられた知恵とかかわり、相互尊重、自己の本来性や他者への共感を導きます。このように、フォーカシングは世界の平和と調和を育んでいます。

今後の展望：「戦略的プラン」

2017年6月

フォーカシングは、シカゴ大学の哲学者であり心理学者であったユージン・ジェンドリンによって開発された、治療的で、自己成長のプロセスです。フォーカシングは、まだ言葉にならないような、からだで感じられる微妙な感覚である「フェルトセンス」に注意を向け、フェルトセンスを表す作業で、内側への気づきを促す他の方法とは質的に一線を画しています。それは、直接的に体験されるけれどもまだ言葉にならない内なる知恵に、何ごともジャッジしない態度で、開かれた注意を向ける心の中の作業です。フォーカシングは、個人的な問題や職業的な問題の解決にも使うことができます。特に、自分が何を感じているのか、何を望んでいるのかがより明瞭になる、選択肢に限りがあるような局面で新たな洞察を得る、あるいは、状況における創造的な変化を刺激するために使うことができます。

「ミッションステートメント」

(このミッションステートメントは、事務局長、理事会、国際評議委員会が話し合いを重ねて到達した成果です。当初の草案は2015年春に世界各地のフォーカシングコミュニティに配布され、その時寄せられたフィードバックをこのステートメントに反映させました。)

なぜ「フォーカシング」なのでしょう？

フォーカシングは体験的な傾聴に根差したプロセスで、強力に、このからだに感じられた知恵とかかわり、相互尊重、自己の本来性や他者への共感を導きます。このように、フォーカシングは世界の平和と調和を育んでいます。

私たちについて

国際フォーカシング研究所は国際的、異文化的な組織として、世界中でフォーカシングやその背景哲学を教え、発展させ、実践する個人やグループをサポートすることに専念しています。

私たちの活動

国際フォーカシング研究所は、フォーカシングの普及に取り組んでおり、フォーカシングに基づいた幅広く多様な応用や教育方法論を奨励しています。また、私たちは、フォーカシング研究を推進し、情報の中核となり、フォーカシング関連文献を管理し、教育、対話や相互の関わり合いのための場として物理的空間やインターネット上のバーチャルスペースを提供します。このように様々な方法で、国際フォーカシング研究所は、フォーカシングの創始者ユージン・ジェンドリンの功績とそれを継承する人々の業績を共有し、発展させていくことに取り組んでいます。

エグゼクティブサマリー

「目的」

戦略的プランは、理事会と国際評議委員会によって明示された4つの目的に基づき、策定されました。

1. 誰もがフォーカシングを利用できる、生き生きとした環境を整えるために、十分な力を備えた組織を構築する。
2. フォーカシングの誠実性を保全し、その発展を推進する。
3. その発展のための媒体として、活気に満ち、応答的で、妥当性、関連性のあるプログラムや応用を世界規模で展開していく。
4. 国際フォーカシング研究所の認知度を高め、人々が^{せい}生を推進する方法として「からだ^{せい}で感じられる意味感覚 (bodily felt sensing)」の恩恵を効果的に伝えていく。

「戦略的プラン」

今回発表するプランは国際フォーカシング研究所の理念を提唱します。前述した4つの目的には、フォーカシングを世界中に普及する原動力として研究所がその潜在的可能性を最

大限發揮していくという、私たちの夢が込められています。私たちは、フォーカシングとその根底にある哲学を各自の生き方、働き方に統合していくことを追求します。なぜならば、より大きな知恵と共感を世界にもたらすフォーカシングの特別な力を実感しているからです。

研究所には強力な人的財産があります。メンバーは 50 か国以上、2400 人を超え、そのうち、1300 名は研究所認定メンバーで、そして、現在 600 名近くが認定に向けて研修を受けています。コーディネーター（サーティファイニング・コーディネーター、CC と呼ばれることもあります）は 207 名、コーディネーター・イン・トレーニング（CNT）は 50 名です。コーディネーターは、個人を認定候補に推薦する権限をもっています。その他にコーディネーターが担う役割については、今後明確化すべき領域のひとつです（戦略 2A 参照）。研究所の強みのひとつとして、コーディネーターも他のメンバーもフォーカシングと研究所に精力を注ぎ、多くの人々が想いを具体化しようと率先して活動しています。世界各地のフォーカサーが研修、自己啓発、企画プロジェクト、寄付や様々な資源の提供を通じて、フォーカシングを推進しています。

そうした中で、世界各地のフォーカサーの活動や希望、期待に関わるスタッフの規模が小さいことが研究所にとって主要な課題となっています。現在、常勤職員は 2 名、非常勤または契約スタッフが数名です。国際フォーカシング研究所のメンバーになるフォーカサーの数を増やし、毎年そのメンバー数を維持するための得策を見つけることは、研究所がそのミッションを果たし続けるために必要な資源の確保につながります。世界には、研究所に正式に登録しているメンバー数よりもはるかに多くのフォーカサーがいます。研究所の長期的成功を支える鍵は、まだメンバーではないフォーカサーとの関係構築にあると考えています。

「財政基盤」

長年、研究所の資源を適切に管理していただいた結果、過去 3 年間は研究所の運営に必要な財源を確保できましたが、近年、研究所の経済状況は変化しています。

創業者先導型組織から移行して、より専門的で持続可能なリーダーシップモデルを確立す

る過程で、スタッフのニーズは増大する一方、フォーカシング研究所サマースクールといった年次イベントからの収入は減少しています。研究所への寄付も減少しています。嬉しいことに、メンバー数と会費収入は増えており、新しいオンラインプログラムを企画し、新たな収入の道を開拓しています。研究所は、メンバーの皆様と協力して、研究所の財政が順調なときにはフォーカシングティーチャーも恩恵を受け、ティーチャーの実績が好調なときには研究所も恩恵を受けることができるように、フォーカシングを教える人たちと研究所の利益を均衡よく連動させる方法を見つけたいと思います。この目標を達成する鍵はウェブサイトのリニューアルにあります。ウェブサイトを刷新することにより、メンバーから提供される成果物を研究所からの中心的提供物として位置づけ、フォーカシングを学ぶ人たちにとって、研究所とそのメンバーが競合的關係にあるような事態に終止符を打ちたいと思います。研究所に関するコーディネーターの役割を検討していく中で、そして今後誕生する多くのフォーカシング・インタレスト・グループや国／地域グループとの適正な関係にふさわしいモデルを模索する中で、新しい、互恵的なモデルが出現するかもしれません。

近年の動き ⁱ⁾

創立者先導型組織から新時代への移行

注i) 本文書の発表前、私たちの創始者ユージン・T・ジェンドリンが逝去されました。詳細については、www.eugenegendlin.com をご覧ください。

フォーカシング研究所は 1985 年にシカゴで創設され、現在はニューヨーク州ナイアックにオフィスを構えています。2017 年初頭の研究所会員数は 2,400 名を超えました。

2013 年 12 月、フォーカシング研究所は、創立者のユージン・ジェンドリンが理事会会長を退任された時に大きな転機を迎えました。同時に、彼の妻であり長年の共同研究者であり、研究所 Director であったメアリー・ヘンドリックス・ジェンドリンも副会長を退任しました。Managing Director のメリンダ・ダラー、そしてメアリー・ヘンドリックスと共に co-Executive Director を務めていたカイ・ネルソンも同じ時期に退任しました。

この移行期を管理するために、ジーンとメアリーは暫定理事会を設置しましたⁱⁱ⁾。2014年前半、暫定理事会は事務局長（キャサリン・トルピー）を任命し、世界各地のフォーカシングコミュニティの意見を参考にして新理事会ⁱⁱⁱ⁾を選出しました。暫定理事会は、リーダーシップ構造の国際的側面を制度化するために、新しい機能、国際評議委員会（ILC）を設立しました。2014年夏までに事務局長、理事会^{iv)}、ILC^{v)}が始動し、新たな時代が始まりました。

2014年夏から2015年夏にかけて、理事会は、研究所がジーンとメアリー・ジェンドリンとの新しい「適正な関係」を見出す必要性をはじめ、緊急の課題に注力しました。ILCにおいては、理事会、コミュニティ、コーディネーターとの関係においてそのアイデンティティと役割を見極めることから着手しました。新事務局長は理事会、ILCと密接に協働し、世界各地のフォーカシングコミュニティに向けて積極的にコミュニケーションをとり、世界中のあらゆる層のフォーカサーとの関係醸成に努めました。第一の優先事項は、研究所がその移行期に遭遇した経済的打撃から立ち直ることでした。

「私たちのプランニングプロセス」

現状を把握し、将来に向けて計画をたてるために、リーダーシップは、事務局長、理事会のメンバー2名、ILCのメンバー2名で構成される戦略的プラン策定委員会を設置しました。その任務は、プラン策定プロセスに関して理事会に助言を行うことでした。同委員会は、戦略的プランニングコンサルタントの雇用を提言しました。2015年4月までに、理事会は、研究所におけるプランニングプロセスの統率役にジョー・コレッティ（Joe Colletti）^{vii)}を委任しました。

ジョーは、理事会、ILCおよび事務局長とビデオ会議を行い、協議しながらミッションステートメントが作成されました（ミッションステートメントについては下記参照）。その後、2015年7月、ジョーは、理事会とILCと共に、ワシントン州シアトルで2日間にわたる集中的な戦略的プラン策定会議を行い、研究所の目的が具体的になっていきました。このミーティングはフォーカシング国際会議直前のことでした。国際会議の席上、理事会とILCによる取組みが発表された後、オープンセッションには多数の参加者が出席、反応や意見がフィードバックとして収集、整理されました。

シアトルから戻るとすぐに、理事会と事務局長は、ローザ・スビサレッタ (Rosa Zubizarreta) に 2016 年初めの理事会、ILC、事務局長による「戦略的対話」での指導役を要請しました。シアトルでの取組みは生産的でしたが、時間が短かったために、重要事項への「フェルトセンス」を十分得ることができなかつたのです。ローザは理事会、ILC のメンバーと個別に話をし、事務局長とは頻繁に連絡を取りました。2015 年 4 月中、ローザは、理事会、ILC、事務局長とオンライン会議を重ねました。

「コンセンサスに至る」

ジョー・コレッティとローザ・スビサレッタの指導の下、十分な話し合いが行われ、シアトルで始まった取組みを完成に向かわせる準備が整いました。同時に、事務局長および理事会と ILC のメンバーから成る小グループによって、シアトルで最初に定義された目的と戦略が練り上げられ、直接にまたはオンラインで寄せられたコミュニティからのフィードバックが統合されていきました。毎月、4 ヶ月間にわたり、事務局長は理事会と ILC との合同会議を招集し、改訂された文書を精査しました。多くの話し合いを重ねて策定された「戦略的プラン」は、知恵と「フェルトセンシング」の集大成です。

「戦略的プランの構成」

以下に示す戦略的プランは、最も重要な 4 つの「目的 (ゴール)」の下に構成されています。目的ごとにその達成を目指すための多数の「戦略 (ストラテジー)」が設定され、次に、戦略ごとにそれを実行するための多数の「行動 (アクション)」が設定されています。各行動は、以下に定義する「目標 (ターゲット) 2017/2018」, 「目標 (ターゲット) 2020」または「目標 (ターゲット) 2022」のいずれかに相当します。

「目標 (ターゲット) 2017/2018」: 緊急に達成すべき項目、すでに取り掛かっている項目、容易に達成される項目、今後数年間に他の優先項目が起こるための前段階として今すべき重要な項目。「2018 年までに、これらの項目は首尾よく達成されましたと発表できる」ことを意図しています。

「目標 (ターゲット) 2020 行動」: これらの行動については近々取組み始める可能性はあ

りますが、現実的には 2020 年までを期限として達成する計画です。たとえば、その項目が達成される前に何らかのステップを先行させなければならない、研究所資源の制約から緊急性の高い優先項目にまず集中する必要がある等々の事情から、項目によっては、達成までに 2~3 年を要するかもしれません。「2020 年までに、これらの項目は首尾よく達成されましたと発表できる」ことを意図しています。

「戦略 1A における目標（ターゲット）2022 行動」：これらの行動については近々取組み始める可能性はありますが、現実的には 2022 年までを期限として達成する計画です。たとえば、その項目が達成される前に何か別のこと（それ自体に相当な時間がかかるような）を先行させなければならない、研究所資源の制約から他の優先項目にまず集中する必要がある等々の事情から、項目によっては、合理的予想として達成までに数年を要するかもしれません。「2022 年までに、これらの項目は首尾よく達成されましたと発表できる」ことを意図しています。

2017 年-2018 年の優先事項

理事会は、この戦略的プランで提唱する理念を総合的に検討して、現在自由になる資源の観点から、2017 年-2018 年の優先事項を以下の通り定義しました。

1. ウェブサイトのリニューアル（戦略 1A および戦略 3A 参照）
2. 将来に向けて質と説明責任を担保するために、コーディネーター選任方法の改正（戦略 2A 参照）。注：本プロセスは現在、ILC 主導の下、進行中です。詳細は www.focusing.org/ilc をご覧ください。
3. 私たちの歩みを文書化し、ジーン・ジェンドリンの功績を適切に讃えるためのレガシープロジェクトの開始（戦略 4A 参照）

「戦略的プラン」

オリジナルの英語版は、10 ページにわたって、目的、目的達成のための戦略、戦略を実行するためのアクションステップを詳述しています。戦略的プランについては、各国の言語に翻訳していただきたいと思います。翻訳にご協力いただける方は研究所までご連絡ください。

結論／謝辞

本戦略的プランは、フォーカシングコミュニティの大勢の皆様が多大な努力の集大成です。研究所は、辛抱強くその賢明なリーダーシップを発揮してくださったジョー・コレッティとローザ・スビサレッタに、シアトルおよびケンブリッジでのフォーカシング国際会議期間中参加を通じてこのプロセスに貢献してくださった皆様に、オンラインで意見をお寄せくださった皆様に、心より感謝申し上げます。皆様の尽力に支えられたプロセスを経て、理事会と ILC は、異なる見解を包容し未来への希望を擁護する共通のビジョンを創りあげることができました。

今回概要を示しました高潔な理念は、フォーカシングを実践する人たちがその実践から導いてきた深遠な意味感覚に根差しています。私たちは、その生涯にわたる探究において、多くの人々の人生に深い影響を与えた哲学を詳細に語り、教え導いてくださった研究所の創立者ユージン・T・(ジーン) ジェンドリンに心より感謝の念を抱いています。ある ILC メンバーの言葉を借りれば、「ジーンは新しいシステムを提供しただけではなく、そのシステムを超えて行った。彼の哲学を通じて、私たちはまったく新しい方法で複雑性に直面することができる。」^{viii} 私たちは心深く彼への親愛の情と愛を感じています。私たちは、ジーンの妻として共同研究者として、研究所に、フォーカシングに、長年献身してくださったメアリー・ヘンドリックス・ジェンドリンに感謝申し上げます。メアリーは、私たちにとって、いつまでも真のインスピレーションであり続けます。長年 **Managing Director** を務めたメリンダ・ダラーは研究所の財務状態を健全に維持してくれました。彼女の長年にわたる功労に深く感謝します。メアリーの研究所在職中、献身的に **co-Director** を務めたカイ・ネルソンは、信頼されるアドバイザーとして、友人として、ジーンとの緊密な探究活動を続けています。「シカゴ時代」(1980年代および1990年代初頭)には、研究所はドラリー・グリンドラ・カトナのリーダーシップなくして存続できなかつたことでしょう。メアリー・マグワイアは、**Director** という役割の遂行を通じて、研究所の基本構造と認定プロセスを構築しました。私たちが未来に向けてもつすべての夢は、こうした素晴らしい人々のレガシーに礎を置いています。そして、前任の理事会メンバー、私たちのフラッグシッププログラム「上級認定ウィークロング」の講師陣をはじめ、多大な貢献をしてくださった方々は枚挙にいとまがありません。

外を取り巻く状況から私たちが可能である、望ましいと感じるものが変わる可能性もありますから、この戦略的プランは、実施から学びながら、随時、改訂していきます。

“Experience is a myriad richness. We think more than we can say. We feel more than we can think. We live more than we can feel. And there is much more still.” (Eugene T. Gendlin)

巻末の注

- i) 研究所の歩みについて、年表はウェブサイト：
<http://www.focusing.org/timeline.asp> をご覧ください。
- ii) 暫定理事会のメンバーは、ロバート・リー (Robert Lee, 米国), ジェリー・コンウェイ (Jerry Conway, 英国), ナイナ・ジョイ・ローレンス (Nina Joy Lawrence, 米国), およびロブ・フォックスクロフト (Rob Foxcroft, 英国)。ジェリーは個人的事情から12月末で退任、後任はシンシア・コールセン (Cynthia Callsen, 米国)。2014年3月、ジェーン・クエール (Jane Quayle) が理事会メンバーではなくファシリテーターとして非公式に参画。4月にナイナ・ジョイ・ローレンスが個人的事情から退任。後任者は選任されなかった。
- iii) 2014年夏に任命された理事会のメンバーは、デビッド・ローム (David Rome, 米国), メアリー・ジェニングス (Mary Jennings, アイルランド), ケビン・クリスカ (Kevin Krycka, 米国), ジム・アイバーグ (Jim Iberg, 米国), ジェーン・クエール (Jane Quayle, オーストラリア), およびスーザン・レノックス (Susan Lennox, 米国)。
- iv) 2014年夏に任命された最初の ILC のメンバー：セルジオ・ラーラ (Sergio Lara, チリ), 池見陽 (日本), ハイホ・フォイアシュタイン (Hejo Feuerstein, ドイツ), マリーヌ・ド・フレミンヴィル (Marine de Freminville, カナダ), ルース・ハーシュ (Ruth Hirsch, イスラエル), およびバーバラ・マクギャバン (Barbara McGavin, 英国)。
- v) 理事会のホームページは、www.focusing.org/board をご覧ください。
- vi) ILC のホームページは、www.focusing.org/ilc をご覧ください。
- vii) ジョー・コレッティ (Joe Colletti) は、Biospiritual Institute の理事会メンバー

であり，経験豊かな戦略的プランナー。ジョーはYouTube(<http://www.youtube.com/watch?v=14mRSLWawRs>)でその方法論について語っています。

- viii) ユージン・ジェンドリンの伝記については，http://www.focusing.org/bios/gendlin_bio.html をご覧ください。